人と繰り返し関わることで、気付きの質を高めていく児童の育成
～１年「１ゆきぴかぴかたんけんたい」の実践を通して～

安城市立高棚小学校　岩井　あづ美

１　単元について

（１）単元設定の理由

本学級の児童は、とても明るく、様々なことに対して前向きに取り組むことができる。入学当初は不安そうな児童も、スタートカリキュラムを取り入れながら、少しずつ学校生活にも慣れてきた。また、校内で目にする施設や遊具に対して旺盛な好奇心をもち、それらを使ったり遊んだりする中で、いろいろな発見をしたり友達が増えたりして、学校は楽しいところであると感じている。生活科の授業では、４月に２年生との「仲良しの会」を行い、交流する時間を設けた。それまでは、２年生に対して伝えたいことや話したいことをカードに書き、楽しみにする姿が見られたが、いざ目の前にすると、自分から進んで話すことができず、固まってしまう様子が見られた。一方で、関わりたい気持ちが裏目に出てしまい、２年生の気持ちを考えずに、言葉を発する姿もあった。

そこで、本単元では、児童の「学校のことを知りたい。」という思いから、探検活動を取り入れていく。その際、２年生や同じ学級の児童と一緒に「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」を見付ける活動を通して、人と関わることの楽しさや、様々な人や施設、自分との関わりに興味をもって生活ができるようになってほしい。また、人と関わりながら、繰り返して「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」を探し、そのことについて、自分から発信したり友達の話を聞いたりすることで、気付きの質を高め、次時への思いにつなぐことができるようになってほしいと考え、本単元を設定した。

（２）めざす子どもの姿

・人と関わることの楽しさを実感しながら、意欲的に探究する児童
・学校にある「わくわく」する「もの」「ひと・こと」に自ら興味をもち、自分の思いや気付きを表現したり友達と交流したりする児童

（３）仮設と手立て

＜仮説１＞
スタートカリキュラムや他教科を取り入れる教科横断的な単元構想を工夫すれば、児童一人一人が安心して「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」に興味をもち、意欲的に活動に取り組むことができるであろう。

【仮説１に迫るための手立て】

手立て①意欲的に取り組むことができるように、「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」を見付ける活動を取り入れたり、「知りたい」「見てみたい」「行ってみたい」という児童の思いや願いを大切にして授業を組み立てたりする。

手立て②人と関わりながら活動できるように、心と体をほぐすスタートカリキュラムや教科横断的な授業を取り入れる。

＜仮説２＞
体験活動の後には必ず表現活動の時間を設定すれば、互いに見付けた「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」を聴き合う中で、自分の思いや気付きの質を高めることができるであろう。

【仮説２に迫るための手立て】

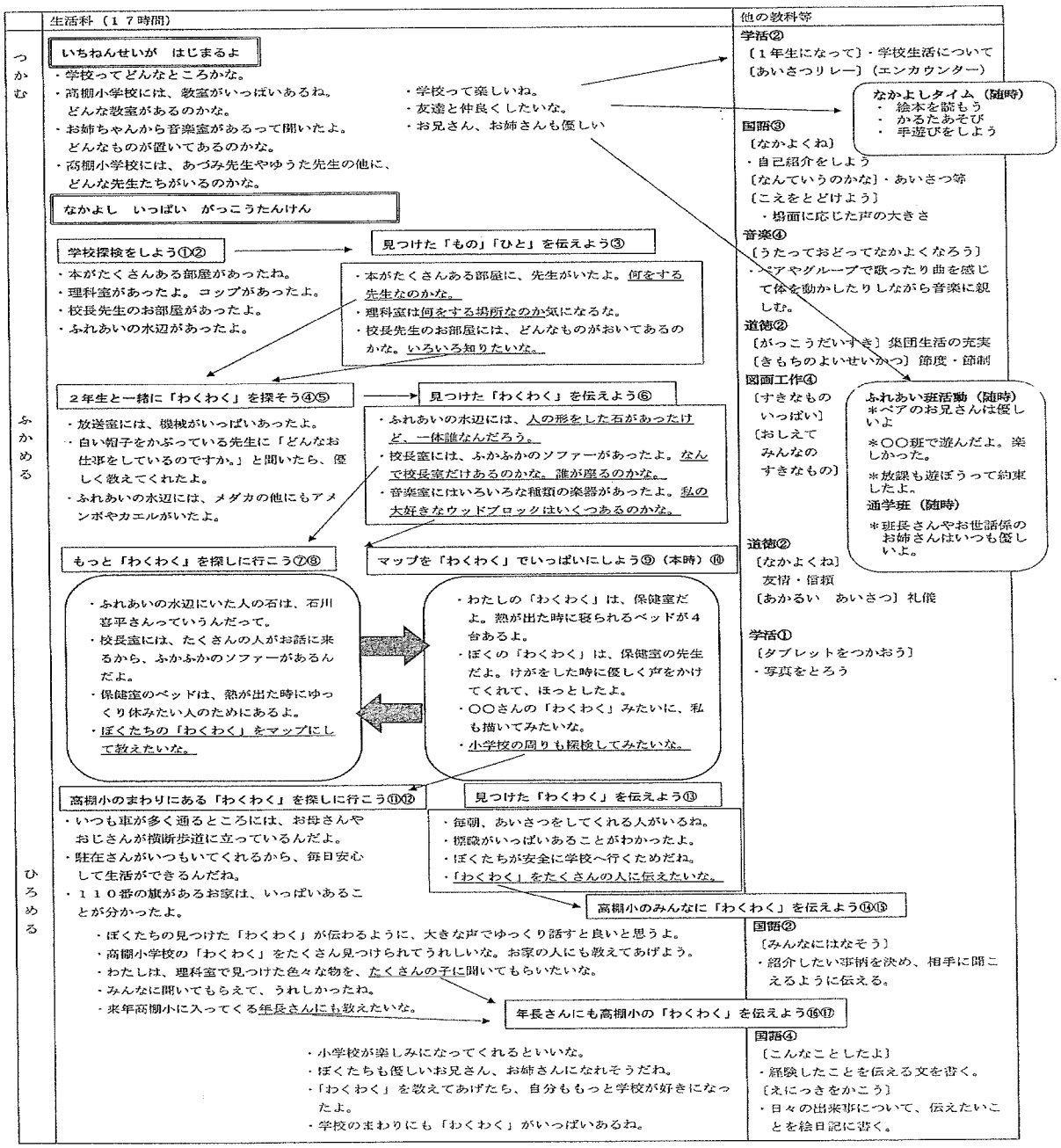
手立て③自分で見付けた「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」を伝えられるように、タブレットを使用する時間を確保する。

手立て④友達の思いや気付きを見たり聴いたりすることができるように、言葉や絵で伝える場を設定する。

手立て⑤児童が互いの思いや気付きから新たな気付きへとつなげられるように、教師が問いかけたり、児童の思いをつなげたりしていく。

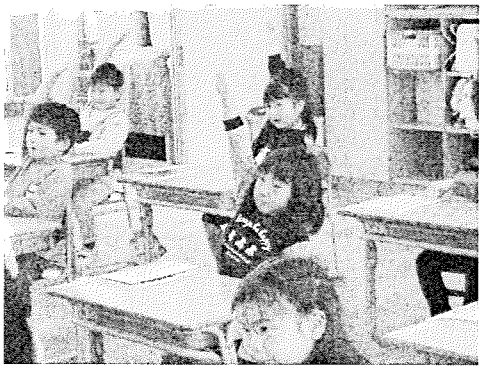
手立て⑥学校や通学路で見付けた「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」を振り返り、表現する機会を設ける。

（４）単元構想図【１７時間完了】



2　実践経過と考察

(1) 高棚小学校ってどんなところかな（手立て①）



【資料１】意欲的に見付けたものを発表しようとする児童

小学校へ入学して１か月ほどが経ち、不安そうな児童も少しずつ学校にも慣れ、笑顔が見られるようになった。ある児童が、「お姉ちゃんから、高棚小学校には大きな部屋がたくさんあるって聞いたよ。」とうれしそうに、教師や友達に話す姿があった。その話を聞いていた児童たちは、「どこにあるの。」、「音楽室っていう名前だと思うよ。」、「みんなで行ってみたいね。」と各々に話し始め、興味をもち始めている様子であった。そこで、「入学してから、高棚小学校で見付けたものはあるかな。」と問いかけ、自分で見付けたものを発表する場を設定した。どの児童も、自分の見付けたものを伝えようと、積極的に手を挙げ、意欲的に授業へ参加をする様子が見られた【資料１】。場所だけではなく、いつも遊ぶ遊具について発表する児童や、生き物・植物を発表する児童、校長先生や隣の学級の先生など、人に着目する児童もいた。それを聞いた他の児童が、「どこにあるのかな。」、「他にも先生がいっぱいいるのかな。」とつぶやいていた。「みんなで学校を探検してみますか。」と教師から尋ねると、満面の笑みで「行きたい。」と元気よく答えた。それだけ、学校に対して強く興味・関心をもっていることや、学校という場所が楽しいと感じている児童が多いことが分かった。

(2) ２年生と一緒に「わくわく」を探そう（手立て④）

【資料２】２年生や保健室の先生から話を聞く児童

初めての学校探検は、２年生のペアと一緒に周りながら、学校について教えてもらうことになった。今まで入ったことのない部屋に連れて行ってもらい、どんな部屋なのか、どんな「もの」があるのか、どんな「ひと」がいるのか、１年生の児童は目を輝かせながら話を聞いた【資料２】。途中、教師とすれ違ったときには、「保健室には、けがを治す道具がたくさんあると教えてもらったよ。」「保健室の先生から、シャワー室があると聞いてびっくりしたよ。」とうれしそうに話す１年生の姿が見られた。探検が終わった後は、学校探検で見付けた「わくわく」を伝え合う時間を設けた。児童が見付けた「わくわく」を全体へ伝えると、毎回「ぼくも見付けたよ。」「そこには、○○先生がいたよ。」などの、たくさんのつぶやきが聞こえてきた。それだけ友達の見付けた「わくわく」について、知りたい気持ちが大きくなっているのだと感じた。しかし、ある児童が、「私は見ていないから分からない。」と悲しそうにつぶやいた。他にも「なんで校長室にふわふわな椅子があるの。」などの疑問も出てきた。今後、どうしたいかを投げかけると、「もっと学校探検へ行って調べたい。」という声が上がり、次

の日からさらに学校探検へ行くことになった。

(3)もっと「わくわく」を探しに行こう（手立て①、②、③）

①１年生だけで「わくわく」を探しに行こう

２年生と一緒に学校探検へ行ったことで、さらに「知りたい」ことや「見てみたい」ものが増え、１年生だけで学校探検へ行くことにした。一気にいろいろな場所へ行くのではなく、学級でどこに行きたいのかを話し合って決めることにした。探検へ行くときには、必ずタブレットを持ち、「わくわく」する「もの」や「ひと」の写真を撮影することで、自分で見付けた「わくわく」を見返すことができるようにした。児童は写真を撮り終えるとすぐに、「○○さんは、どんなわくわくを見付けたの。」「ぼくは、これを見付けたよ。」「それはどこにあったの。」と互いに聴き合う姿が見られた。また、「そのわくわくはすてきだね。」と声をかける姿も見られ、児童同士の関わりができるようになった。探検の後は、自分の撮影した写真を見ながら、「わくわく」カードに「もの」や「ひと・こと」の絵（または言葉）を描いて貯めて、どんな「わくわく」を見付けたのかを伝えることにした。すると、さらに気になることや知りたいことが出始め、次の探検へ生かすことができた。この流れを繰り返すことにより、「もの」だけではなく、「ひと」にも着目ができる児童が少しずつ増え、気付きの質が高まった。

②「１ゆきぴかぴかたんけんたい」に変身しよう

ア　オリジナル探検バッジを作ろう

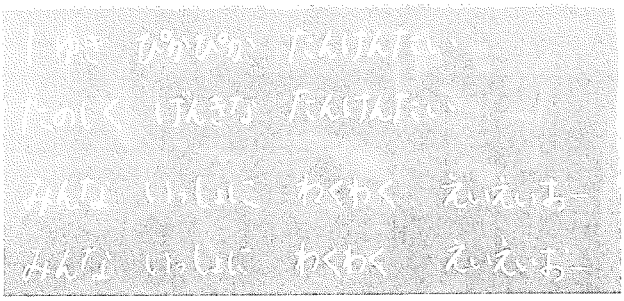
教師から「学校探検をするときに、『１ゆきぴかぴかたんけんたい』に変身してみませんか。」と提案をした。すると、「探検バッジを作って変身したい。」との声が上がった。

そこで、図画工作の時間を使って、オリジナル探検バッジを作成することにした。始めは悩んでいた児童も、だんだんと自分の思いが詰まったバッジを作り始めた。ある児童に「どうしてその形にしたの。」と尋ねると、「探検はお宝を探しに行く感じがしたから、ダイヤの形にしたよ。」と教えてくれた。他にも、「みんなで一緒に探検できるから、お友達をバッジに入れたよ。」と話す児童もいた。バッジが完成したときは、誰もが笑顔で胸にオリジナルバッジをつけることができた【資料３】。

【資料３】探検バッジをつけ、うれしそうな児童

イ　「１ゆきぴかぴかたんけんたい」の歌を作ろう

音楽の教科書の中に、「セブンステップス」という歌がある。友達と一緒に楽しく歌って踊ることができ、音楽の授業では毎回歌っていた。それぐらい、児童たちにとってお気に入りの歌となっていた。そこで、このメロディーに、自分たちで歌詞をつけ、探検隊の歌を創作することにした。「探検」と聞いてどんな言葉が



【資料４】学級全員で作った探検隊の歌詞

思いつくのか児童に尋ねると、「わくわく」、「みんな」、「一緒に」、「元気に」、「えいえいおー」の言葉を挙げた【資料４】。さらに、振り付けも児童がアイデアを出し合った。出来上がった探検隊の歌を発表すると、「やってみたい。」と言い、近くにいる友達とすぐに歌い始めた。児童の思いがたくさん詰まったオリジナルだからこそ、これだけ意欲的に歌うことができると分かった。また、友達と楽しそうに関わる姿もあり、スタートカリキュラムの一つとして活用することで、心がほぐれた状態で活動を進めることができた。

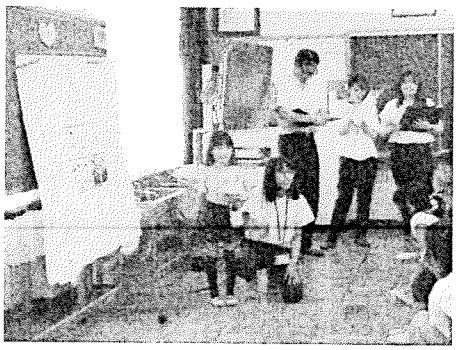
(4) マップを「わくわく」でいっぱいにしよう（手立て②、③、④、⑤）

①見付けた「わくわく」を友達に自慢しよう

学校探検へ何度も行き、貯めてきた「わくわく」カードを使って、大きなマップを作ることを提案した。模造紙３枚分のマップに、自分たちの「わくわく」カードでいっぱいにしていくこと、同じ班の児童や周りにいる教師にどんな「わくわく」を見付けたのかを自慢してから、貼りに行くことを説明した。班に分かれ活動をする様子を見ていると、なかなか上手く言語化ができず、困惑しているＣ１がいた【資料５】。そこで、教師から探検時のことを問いかけ、自分の見付けた「わくわく」を、再度想起できるようにした。すると、聞いていた他の児童が、「すごいね。」と話しかけ、児童同士でのやり取りが始まった。戸惑っていた他の児童も、Ｃ３の投げかけに対して、自分なりに考え、相手へ伝えようとする姿が見られた。児童同士の関わりにより、さらに学びが深まったと考える。

Ｔ　：どうしたの。
Ｃ１：どうやって言えばよいのか分からないの。
Ｔ　：たくさんカードを書いたね。これは何か教えてほしいな。
Ｃ１：それは白いつぼだよ。
Ｔ　：どこで見付けたの。
Ｃ１：体育館にあったよ。
Ｔ　：体育館のどの辺りにあったの。
Ｃ１：舞台の横にあったよ。初めてあんなに大きなつぼを見たよ。
Ｔ　：そこが「わくわく」したの。
Ｃ１：うん、そうだよ。
Ｃ２：すごいね。それは「わくわく」しちゃうね。
Ｃ３：なんで体育館につぼがあるのかな。気になるね。
Ｃ１：きっと、たくさんの人にきれいなお花を見せたいんだよ。

【資料５】問いかけの様子



【資料６】発表する児童

②自分の経験を伝えよう

マップを見ると、「わくわく」がたくさん貼られ、児童たちはとてもうれしそうにしていた。「私も同じものを見付けたよ。」「保健室には、たくさんわくわくが貼ってあるね。」など、見て気付いたことを自由に話していた。その中で、「もの」ではなく、「ひと」に着目してマップに貼る児童の姿があった。どうして「ひと」に着目した「わくわく」を貼ったのかと聞いてみた【資料６】。児童は、担任が「かわいいから。」と答えると、他の児童が、「いつも勉強を教えてくれるから、ぼくも担任の先生を書いたよ。」と、自分の経験である「こと」にも着目して発表した。再度カードをマップに貼る時間を取ると、たくさんの児童が「ひと・こと」に関連するカードを貼るようになった。その場で新たに、カードを書き始める児童もいた。担任だけではなく、自分たちの生活には、たくさんの「ひと・こと」が関わっていることに気付き、自分の思いをのせて表現することができるよう

になった。完成したマップを見て、全体の場で思ったことを伝え合うときには、Ｃ５やＣ８のように、「ひと」だけではなく、「こと」についても、自分の経験を入れて、気付きを伝える児童の姿が見られた【資料７】。

Ｔ　：マップを見て、何か思うことがある子はいますか。
Ｃ４：保健室の先生が、たくさん貼ってあるよ。
Ｔ　：本当だね。どうして保健室の先生が「わくわく」したのか聞いてみますね。
Ｃ５：けがをしたときに、絆創膏を貼ってくれてうれしかったから。（ひと・こと）
Ｔ　：他にも言える子はいるかな。
Ｃ６：けがを治してくれるし、にこにこして優しく声をかけてくれたから。
Ｃ７：けがをしたとき、「大丈夫。」と聞いてくれてほっとしたよ。
Ｃ８：服が濡れてしまった時に貸してくれる、優しい先生だよ。（ひと・こと）

【資料７】「ひと」から「こと」に気付きの質が高まる児童の話し合い

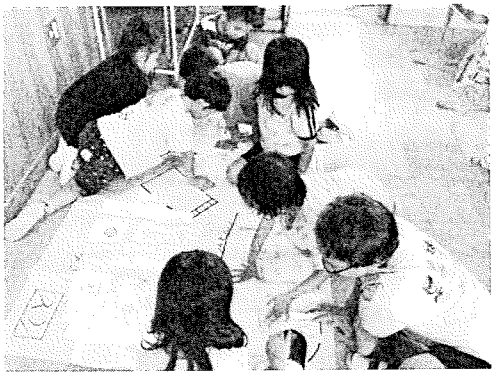
(5) 学校のまわりにある「わくわく」を探そう（手立て①、④）

休み時間に児童から、「学校の外を探検してみたい。」という声が上がった。他の児童たちからも「わくわくを見付けたい。」とうれしそうに話していたので、小学校の周りにある「わくわく」を探しに行くことになった【資料８】。周りを見ながら歩いていると、「駐在所があるよ。」と教えてくれる児童がいた。すると、それを聞いた児童が「ここは、おまわりさんがいるのだよ。」「みんなの安全を守ってくれるのだよ。」と続いた。友達の気付きから、新たな気付きへとつながっていく様子が見られた。またその会話から、児童たちの視点が「安全」へと向けられたため、「わくわく」カードには、安全に関する「もの」や「ひと・こと」が多く描かれ、その後作成をした通学路のマップには、安全に関係する「わくわく」でいっぱいとなった。

【資料８】通学路を探検する児童

(6)みんなに「わくわく」を伝えたいな（手立て④、⑤、⑥）

マップが完成し、これからこのマップをどうしていきたいのか、児童へ投げかけたところ、「たくさんの人に見てもらいたい。」という声が多かった。どんな人に見てもらいたいかを聞くと、自分の家族や小学校の先生、６年生のお兄さん、お姉さん、保育園や幼稚園の子や先生たちと話した。それだけ、自分たちの思いが詰まったマップの「わくわく」について、自ら伝えたい気持ちが大きいと感じた。そこで、国語の時間を使って、一番伝えたい「わくわく」と題して、伝えたいこと文で表現することにした。児童はマップを見ながら、たくさん貼った自分の「わくわく」カードを探し、自分の言葉で「わくわく」したところを文章にしていった【資料９】。繰り返し学校探検へ行っているからこそ、

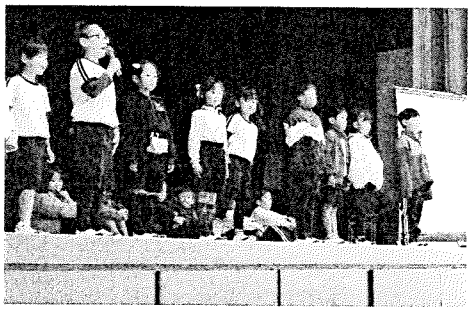


【資料９】完成したマップを見ながら考える児童

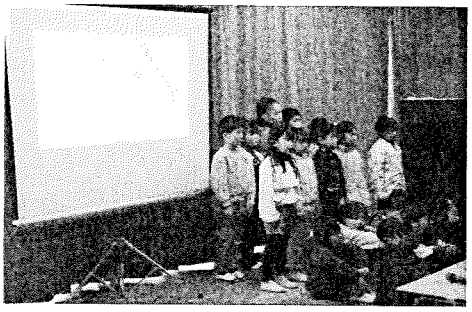
書きたいことが溢れ出し、どのように説明すれば、相手が分かってくれるのかと、目的意識をもって考える姿が見られた。

(7) 見付けた「わくわく」を話そう、伝えよう（手立て②、④、⑤、⑥）

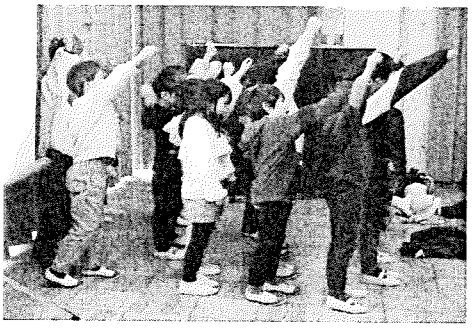
自分の思いがたくさんつまった文章を使って、全校児童とこども園の年長さんに、「わくわく」を発表することにした。練習を始めてみると、緊張感が漂い、表情が硬い児童がとても多く見られた。そこで、練習の後に、振り返りとして、友達のよかったところを互いに話す場を設けた。すると、自信をもち始め、だんだんと笑顔で伝えようとする児童が多くなった。「どの子も、とても楽しそうにお話していますね。」と声をかけると、「お友達に頑張っていることをほめてもらえて、うれしかったよ。」「ペアの６年生のお姉さんに聞いてもらえることが楽しみになってきたよ。」「見付けた「わくわく」を話すことが、とてもわくわくしているよ。」「年長さんに、高棚小学校へ早く行きたいと思ってもらえるといいな。」と教えてくれた。友達と関わり合うことで、認められることや、自分の想いが相手に伝わる喜びを味わうことができ、それがさらなる意欲へと繋がっていったと考える。全校朝会での発表は、堂々と自分の「わくわく」を発表する様子が見られた【資料１０】。発表後は、「頑張ってよかったな。」と満足する姿が見られた。後日、こども園へ出向き、年長さんの前でも発表を行った【資料１１】。どの子もお兄さん・お姉さんの顔で、高棚小学校や小学校周りの「わくわく」を伝える様子が見られた。また、オリジナルの探検隊の歌を元気よく歌い、大きな拍手をもらった【資料１２】。どの児童も、とてもうれしそうにしていた。発表後、年長さんに「早く小学校へ行きたいなと思った人はいますか。」と聞いたところ、ほぼ全員が手を挙げた。その様子を見た児童は、どの子も満面の笑みであった。「早く２年生になって、学校探検へ連れて行ってあげたい。」と話す児童も多く、自分の思いを伝える大切さ、人と関わることの楽しさに気付いてきたのだと感じた。



【資料１０】全校朝会で発表する児童



【資料１１】こども園で発表する児童



【資料１２】オリジナルの振り付けで、探検隊の歌を歌う児童

３　成果と課題

(1) 成果

仮説１については、①の手立てを講じたことで、興味・関心をもち、もっと知りた

いという気持ち高めて活動に取り組むことができた。単元の導入は、学校探検という活動そのものが中心だったが、児童の思いに寄り添った単元構想や授業展開を行っていくうちに、後半は、自分の気になることをさらに探究したり、試行錯誤をして考えを広げたりすることが少しずつできるようになったと考える。②の手立てを講じたことで、どの時間をみても、児童が友達や教師と一緒に心から楽しんで活動している姿が見られた。スタートカリキュラムを継続的に行ったことで、児童たちは楽しく、安心した雰囲気の中で学習を進めていくことができたと考える。教科横断的に、図画工作の授業でバッジを作ったり、音楽科の授業でオリジナルの歌を作ったりしたことで、友達と関わりながら、楽しく意欲的に活動し、次時へつなげることができた。そのつながりを大切にした単元構想や授業の組み立てが、児童の意欲をさらに高めたと実感した。

仮説２については、③の手立てを講じたことで、見付けた「わくわく」を何度も見返し、互いに聴き合うときの手助けとした。「わくわく」カードを描く際、友達とどんな「わくわく」を見付けたのか、写真を見せ合いながら話し、同じ部屋でも「ひと」によって「わくわく」する「もの」や「こと」が違うことに気付く手掛かりになったといえる。④の手立てを講じたことで、自分の思いを明確にして、発表ができた。また、友達の「わくわく」を聴くことにより、自分と比べて考えたり、参考にしたりして今後の活動に生かすことができた。⑤の手立てを講じたことで、児童が安心して自分の思いを広めることができた。また、上手く言葉が出てこない児童に対しても、問いかけることで、自分の言葉で友達へ伝えようと頑張る姿が見られた。さらに、聴き合いの活動の中で、新たな気付きをもつ児童の気付きから、自分の視野を広げていく児童の姿も見られた。⑥の手だてを講じたことで、今まで自分がどんな「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」を見付けたのかを再確認したり、友達と思いを共有したりすることができた。また、表現する機会を設けることにより、自分の見付けた「わくわく」について、自信をもって伝えることができた。

(2) 課題

「ひと・こと」に目を向けさせ、自分の経験と結び付けていったが、「優しい」や「楽しい」などの大まかな言葉で終わってしまった。また、学校の周りにある「わくわく」を探しに行く授業でも、「安全」に目を向けることはできたものの、関連している「もの」を見付けることに特化してしまい、そこから「ひと・こと」へつなげられる児童は少なかった。もう一歩踏み込んでいけるような教師の問いかけがあれば、周りの人たちに支えられているというさらなる価値付けになったと考える。

(3) 研究主題に向けて

生活科は、児童が自分の生活を楽しく豊かにしていく教科である。そのため、今回の学校探検の単元構想のように、児童の生活とつなげることや児童の思いや願いを大切にして、学習を進めていくことが大切なのだと感じた。また、身近な人たちと関わりながら学びを深めていくことで、互いのよさに気付き、それが自身の成長へと繋がっていくと考える。今後も、児童の思いや願いを大切にした単元づくりを行い、児童が生活の中で学び続けられる授業をつくっていきたい。